



## 遺跡群の魅力を語る

帝釈峡遺跡群発掘60周年記念シンポジウム・9/10 No.5

東城文化ホールで「帝釈峡遺跡群発掘60周年記念シンポジウム」が開催され、市内外から161人が集まりました。当日は、俳優で日本考古学協会会員の苅谷俊介さんが「現代人と縄文人の世界観や価値観の違いについて」、広島大学名誉教授の古瀬清秀さんが「帝釈峡遺跡群発掘の歴史や価値について」と題し、それぞれ講演しました。

午後からはパネルディスカッションが行われ、中国新聞社の林淳一郎さんをコーディネーターに迎え、苅谷さん、古瀬さん、地元代表の宮野元壮さん、表良則さんがパネラーとなり、帝釈峡遺跡群の魅力や今後の活用について、熱い討論が行われました。



▲講演を行う苅谷さん

## 収穫を体験

トウモロコシの収穫・8/29 No.7

総領小3・4年生15人が、総領自治振興区の皆さんとトウモロコシの収穫を行いました。

当日は総領自治振興区の中田博章事務局長から、よく育ったトウモロコシの見分け方や、品種による味の違いなどの説明が行われた後、児童自らがトウモロコシを選別し、収穫しました。

収穫したトウモロコシは、実がぎっしりと詰まっているものや、あまり育っていないもの、蛾の幼虫が食べてしまっているものなどさまざま、児童は楽しそうにトウモロコシの皮をむいていました。

参加した児童は「教わった通り選んだら、実がいっぱいのトウモロコシが採れた」と話し、収穫したトウモロコシを見て、喜んでいました。



▲トウモロコシの説明を聞く児童

## 山火事に備えて

合同消火訓練・9/10 No.4

備北地区消防組合西城出張所と庄原市消防団西城方面隊が合同で、林野火災の空中消火を想定した消火訓練を実施しました。

訓練では、広島市消防局消防航空隊のヘリコプターをヘリポートとなる西城球場へ誘導したほか、ヘリコプターからの消火や火災現場への誘導方法を確認するなど、実際の火災を想定した訓練が行われました。

訓練終了後には、ヘリコプターの見学会も行われ、西城保育所などから子どもたちが集まり、目を輝かせながら見学していました。

参加者は「山林の多い庄原市では、非常に重要な訓練であり、貴重な経験ができた」と話しました。



▲ヘリコプターの消火機器を説明する消防航空隊

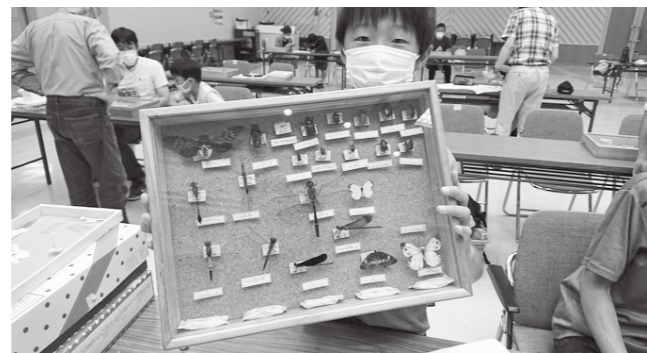
## 博物館で夏の自由研究

昆虫採集・標本づくり教室・8/1 8/26 No.6

比和自然科学博物館で「昆虫採集・標本づくり教室」が開催され、子どもから大人までの36人が参加しました。

この教室は2日間に分けて行われ、1日目は博物館周辺でチョウやトンボなどの昆虫を採集し、3人の博物館インストラクターに標本の作り方を教わりながら、昆虫の標本づくりを体験しました。2日目は標本づくりの仕上げとして、捕まえた昆虫をよく観察し、その特徴から名前を図鑑で調べ、採集した情報と共にラベルにし、標本箱に収める作業に取り組みました。

参加した児童は「虫を捕まえたり、みんなで標本を見せ合ったりして楽しかった」とうれしそうに話しました。



▲完成した標本

## 上位入賞を目指して!

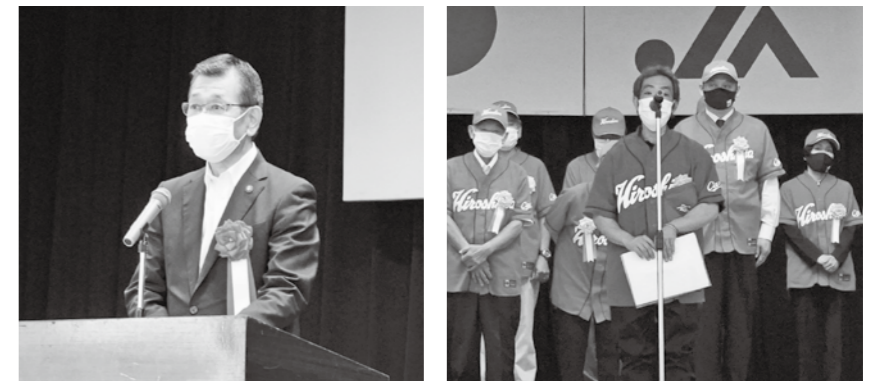
第12回全国和牛能力共進会 広島県出品者結団式・9/9 No.1

10月6日～10日に鹿児島県で開催される第12回全国和牛能力共進会に、広島県代表として出場する出品者15人を激励するための結団式が、JA庄原本所で開催されました。

結団式では、第12回全国和牛能力共進会広島県対策協議会の水永祐治会長や湯崎英彦知事(代理)があいさつしたほか、広島県議会農林水産委員会の竹原哲委員長、木山耕三市長が激励の言葉を述べました。

また、出品者へ牛の首飾りと花束が贈呈され、共進会への出場を祝いました。

最後に出品者を代表し、大迫晴由さんが「広島和牛の魅力をもっと多くの人に知ってもらい、和牛生産を次世代につなげる契機としていきたい。これまで取り組んできた成果を遺憾なく発揮できるよう、力の限り挑む」と決意表明を行い、会場は大きな拍手に包まれました。



▲激励の言葉を述べる木山市長

▲大迫さんによる決意表明



▲本市の出品者の皆さん

## 匠の技で地域貢献

刃物研ぎ・7/12 8/30 9/7 No.3

上高自治振興区が、地域の刃物研ぎ名人グループ「たかの刃研ぎ隊」と、7月から9月の間の3回、「刃物研ぎ」を行いました。

最終回となった今回は、和南原コミュニティセンターで実施され、同隊の加島真一さん、柳川千秋さん、天野俊明さんの3人が、地域の人から預かった約20本の包丁やはさみ、ナタなどの刃を研ぎました。

メンバー3人は、電動工具のやすりを使った荒研ぎから、目の細かい砥石を使った仕上げまでの作業を分担して行い、一本ずつ丁寧に仕上げていました。

ナタを持ち込んだ男性は「自分ではなかなか上手くできないので、とても助かった」と話しました。



▲真剣な眼差しで刃物を研ぐメンバー

## 英語学習の成果を発表

第37回庄原市中学校英語暗唱・弁論大会・8/18 No.2

庄原中学校教育研究会英語部会が主催する「第37回庄原市中学校英語暗唱・弁論大会」が、口和自治振興センターで開催され、市内の中学生20人が参加しました。この大会は、英語学習に対する興味や関心を高め、コミュニケーション能力の向上などを目的に毎年開催されています。

生徒は、この日のために英語の教科書を暗記し、何度も暗唱の練習を行ってきました。当日は学校の先生や、他校の生徒などの前で、緊張しながらも感情豊かに発表しました。

同会の定宗譲二部会長は「昨年は発表する様子を個別に録画して審査を行った。今回は参加者が一堂に会して開催ができ、とてもうれしい」と話しました。



▲暗唱を発表する口和中学校の生徒